

「英語科教育法 III」の評価

英語教育講座・池野修

1. 授業の概要

「英語科教育法 III」は、「英語科教育法 II」(グループによる模擬授業を主活動とする実践系の授業)に続く教育法の授業である。専門知識の習得をねらいとして、英語教育の現代的課題 (e.g. 小中連携, Can-Do リスト) についての講義とグループ学習, 学生グループによる調べ学習の発表, 授業実践 DVD の視聴と分析, ゲスト・ティーチャーによる授業実践, 様々な言語活動の体験と省察などを行った。なお, 2014 年度は, 通常の担当者不在のため, 私 (池野) が臨時に担当した。今年度の受講生は 28 名 (教育&法文の合同クラス) であった。

この授業の到達目標は次の 4 つである。

- (1) 対象テーマについての専門的知識を得る。扱ったテーマは, 「英語科教育の最近の動向」 「到達目標の設定」「英語による授業」「外国語活動」と中学校「英語」の連携」「文法の学習と指導」「語彙と辞書指導」などである。
- (2) 授業実践 DVD の視聴と分析を通して, 英語授業実践省察力を向上させる。今回視聴した授業実践 DVD は, 授業での効果的な英語使用, 4 技能の総合的育成と統合的活用, 英語ディベートなどのテーマに関する中学校&高等学校英語授業の実践である。
- (3) グループ発表を通して, 選択したテーマに対してのより主体的な関わりを持ち, より深い理解を得る。3 人~4 人のグループを作り, 英語教育に関連するトピックについて調べ学習を行い, 毎回の授業の最初のおよそ 20 分で発表を行った。
- (4) 様々な言語活動の体験を通して, 指導のアイディアのレパートリーを豊かにするとともに, 実施上の留意点に対する理解を深める。授業担当者 (池野) が模擬授業のような形で様々な言語活動を実演し, 指導の工夫と改善のための視点について考察した。

2. 授業評価方法

授業の成果を評価するために, 学期末に授業アンケートを実施した。様々な点について質問を行ったが, 本報告書では (i) 扱ったテーマの有用性, (ii) グループでの調べ学習と発表の成果と課

題, (iii) 授業時間外学習の 3 つについて, 関連データを基に考察することにする。なお, 授業時間外での提出としたことも原因で, 回答数は 26 (未回答 2) であった。

3. 授業評価結果と考察

3.1. 授業で扱ったテーマの有用性

まず, 扱ったテーマの有用性について, 「1」 (= 全く有用でなかった) ~ 「5」 (= 大変有用であった) の 5 件法尺度で受講生に回答を求めた。回答結果は以下の通りである (数字は回答者数)。

表 1. 扱ったテーマ内容の有用性の認識

	1	2	3	4	5
(A) 日本の英語教育と世界	---	---	3	16	7
(B) 英語の小中連携	---	---	5	13	8
(C) 到達目標 Can-Do リストの設定	---	---	3	5	18
(D) 英語で授業	---	---	2	12	12
(E) 文法指導の再検討	---	---	3	12	11
(F) 語彙指導	---	---	4	11	11
(G) 英語の土台作りと表現活動	---	---	2	16	10
(H) 実践 DVD の視聴と分析	---	---	1	5	20
(I) ゲスト・ティーチャーによる授業	---	---	---	5	21

上記の結果が示すように, 扱ったテーマは, 受講生におおよそ肯定的に評価されている。英語教育現場での重要な今日の課題を扱ったことの意義は理解されているようであり, 特に「到達目標 Can-Do リスト」の有用性は高く評価されている。また, (H) 授業実践 DVD の視聴と分析と (I) ゲスト・ティーチャーによる授業実践も極めて有用性が高いと判断された。前者については, 文部科学省が作成した授業実践 DVD (合計 4 授業) を, 焦点化した質問 (効果的な teacher talk, 4 技能の統合, 活動の配列, 到達目標との関連性, etc.)

に答える形で視聴し、グループで気づきを交流するとともに、担当教員が追加の解説を行ったものである。後者は、本年度から教育学部にこられた河野極先生（元附属高等学校英語教諭）をお願いして行ってもらった、授業での英語使用、コミュニケーション方略などについての講義と演習である。受講生にとって意義の大きい授業内容を提供していただいたことに対し、河野先生にお礼を申し上げたい。

3.2. グループでの調べ学習と発表

英語教育関連のテーマについての調べ学習を行い、発表するという課題については、「学びが主体的になった」、「自分たちが選んだテーマについての知識が大きく増加した」などの肯定的な感想が多かったが、問題点についても、「20分という枠に多くの情報量を詰め込もうとするあまり、内容がつかめない発表がいくつか見られたので、内容を絞った方が良い。」、「調べたことをパワーポイントで一方的に発表するというものが多かった。活動を組み入れたり、聴衆とのやりとりを行うことが求められると感じた。」などの回答が見られた。

次回この活動を行う場合には、(i) テーマをある程度焦点化するために、担当教員の方からトピックの選択肢を提示する、(ii) 「与えられたトピックに関して、3点程度に限定して内容を構想する」「必ず一部は聴衆とのやりとりを入れる」など発表内容・方法に制限をつける、(iii) リハーサルの実施を徹底させる、(iv) グループ発表用の評価ルーブリック（準備、内容、発表の工夫などの観点別）を作成し、事前に受講生に渡しておく、などの工夫を行いたいと考えている。

3.3. 授業時間外学習の充実

最後に、授業時間外学習を促進する手立ての中から、Study Guide つき課題リーディングと授業実践 DVD の振り返りレポートを取り上げ報告する。

前者は、授業で扱うテーマに関連した読み物（英語科教育法のテキストブックからの抜粋や月刊誌『英語教育』の記事など）について、どのような点を確認し、どの点について自分の考えをまとめておくのかを問う質問を準備したものである。

この課題に関して、多くの受講生は Study Guide の意図を理解しているようであり、それは例えば「どういった点に焦点を絞って読めばよいのか、どのような点が重要なのかを事前に把握した上で授業に臨むことができた」（同種の回答多数）などの回答に見てとることができる。これ以後、授業前の学習時間を質と量の面で充実させるために、Study Guide の中身をさらに改善してい

きたい。例えば、単に課題リーディングから関連情報を見つけさせる質問だけではなく、課題リーディングの内容を再構成させるような課題、効果的に自分なりの考えをまとめさせる課題などを準備するつもりである。

授業時間外学習の促進に関連する別の課題として、授業中に視聴する DVD に関するレポートを課した。授業では、1) 授業分析のポイントに関連する質問を提示する、2) 授業実践 DVD を視聴する、3) ワークシートを用い個人で省察する、4) 省察内容をグループで共有する、5) 担当教員が解説を行うという手順で進めた。受講生は、授業終了後に、学んだことを3点程度に整理して、A4 用紙一枚（裏表）にレポートにまとめるという課題を行った。4つの授業を視聴・分析し、4つのレポートを作成したことになる。

この課題についても、その効果は、「DVD を視聴するだけではあまり記憶に残らない。しばらくすると内容をほとんど忘れてしまうこともある。レポートがあることで、より集中して大事な観点を逃さないようにメモを取りながら視聴できた。また、後から自分が実習などで行う授業を考えたときにもレポートに書いたことが役立つと思う。」などの回答に見てとることができる。

もちろん、課題もなかった訳ではない。例えば、「振り返りレポートを書くだけでは納得がいかなかった。自分たちのグループで授業中に意見交換はできるが、他のグループではどうだったのかなど、他の人が書いているレポートを見る機会が欲しかった。」という回答は授業担当者（池野）の認識とも一致している。他の受講生の考えを知る機会を作る意味でも、Moodle をより効果的に活用することを考えている。

「授業時間外学習の促進」に関連する他の方法について、受講生に意見を求めたところ、次のような回答があった。

- 英語教育に関する本を選び、それを読んだ上で学んだことを文章としてまとめる課題。
 - ムードルなどでその日の講義で習ったことに関する問いを提示し、自分の意見を書いたり、問題を解いたりする。
 - moodle を利用して、授業実践ビデオを配信し、ミニレポートを書く。
 - 学期の初めに作成した自己トレーニング・プログラムについて、定期的に今どのようなことを実施し、どのようなことを学んでいるのかをまとめたりすると効果的だと思う。
- これらの提案がどの程度受講生全体の賛同を得られるかは確かめてみなければ分からないが、これらの実施も検討してみたい。